



ユーザ アイデンティティ ソース

ASA FirePOWER モジュールは、次のアイデンティティ ソースをサポートしています。

- 権限のある ユーザ エージェント レポートは、ユーザ認識とユーザ アクセス コントロールに関するユーザ データを収集します。ホストにログインまたはホストからログアウトするとき、または Active Directory クレデンシャルで認証するときにユーザをモニタするようにユーザ エージェントを設定するには、[ユーザ エージェントのアイデンティティ ソース \(30-2 ページ\)](#)を参照してください。
- 権限のある *Identity Services Engine (ISE)* レポートは、ユーザ認識とユーザ アクセス コントロールに関するユーザ データを収集します。ISE が展開されていて、Active Directory ドメイン コントローラ (DC) を使用した認証時にユーザをモニタするように ISE を設定する場合は、[Identity Services Engine \(ISE\) のアイデンティティ ソース \(30-4 ページ\)](#)を参照してください。
- 権限のある キャプティブ ポータル認証はアクティブにネットワークのユーザを認証し、ユーザ認識とユーザ制御に関するユーザ データを収集します。キャプティブ ポータル認証を実行するために仮想ルータまたは FirePOWER Threat Defense デバイスを設定する場合は、[キャプティブ ポータルのアイデンティティ ソース \(30-6 ページ\)](#)を参照してください。

これらのアイデンティティ ソースからのデータは、ASA FirePOWER モジュール ユーザ データベースおよびユーザ アクティビティ データベースに保存されます。データベース サーバクエリーを設定すると、モジュールに新しいデータを自動的にダウンロードすることができます。

ASA FirePOWER モジュールでのユーザ検出の詳細については、[ユーザ検出の基礎 \(28-1 ページ\)](#)を参照してください。

ユーザ アイデンティティ ソースに関する問題のトラブルシューティング

ライセンス:任意

ユーザ アイデンティティ ソースに関する問題のトラブルシューティングについては、次の各項を参照してください。

ユーザ エージェント

ユーザ エージェントの接続に関する問題が発生した場合は、『*FirePOWER User Agent Configuration Guide*』を参照してください。

ユーザ エージェントによって報告されるユーザ データに関する問題が発生した場合は、次の点に注意してください。

- システムはデータがまだデータベースにないユーザエージェントユーザのアクティビティを検出すると、サーバからそれらに関する情報を取得します。状況によっては、システムが Active Directory サーバからこの情報を正常に取得するために 60 分かかることもあります。データ取得が成功するまで、ユーザエージェントユーザから見えるアクティビティはアクセスコントロールルールで処理され、Web インターフェイスに表示されません。

ISE

ISE 接続に問題が起こった場合は、次のことを確認してください。

- ISE と FirePOWER システムを正常に統合するには、ISE 内の pxGrid アイデンティティ マッピング機能を有効にする必要があります。
- すべての ISE システム証明書と FirePOWER Management Center 証明書には、**serverAuth** と **clientAuth** 拡張キー使用値が含まれている必要があります。
- ISE デバイスの時間は、FirePOWER Management Center の時間と同期されている必要があります。アプライアンスが同期されていないと、予想外の間隔でユーザのタイムアウトが実行される可能性があります。
- 展開にプライマリとセカンダリの pxGrid ノードがある場合、両方のノードの証明書が同じ認証局によって署名されている必要があります。
- 展開にプライマリとセカンダリの MNT ノードがある場合、両方のノードの証明書が同じ認証局によって署名されている必要があります。

ISE によって報告されるユーザデータに関する問題が発生した場合は、次の点に注意してください。

- システムはデータがまだデータベースにない ISE ユーザのアクティビティを検出すると、サーバからそれらに関する情報を取得します。状況によっては、システムが Active Directory サーバからこの情報を正常に取得するために 60 分かかることもあります。データ取得が成功するまで、ISE ユーザから見えるアクティビティはアクセスコントロールルールで処理され、Web インターフェイスに表示されません。

キャプティブポータル

キャプティブポータル認証に関する問題が発生した場合は、次の点に注意してください。

- キャプティブポータルユーザがログインクレデンシャルを入力すると、システムはクレデンシャルをサーバのデータに対して確認します。状況によっては、ユーザデータがまだデータベースにない場合、Active Directory サーバからこの情報を正常に取得するために 60 分かかることもあります。データ取得が成功するまで、キャプティブポータルユーザは認証されません。

キャプティブポータルユーザが 25 秒後に認証されていない場合、エラーメッセージが表示され、キャプティブポータルユーザのセッションがタイムアウトします。ユーザはキャプティブポータルのログインを再試行する必要があります。

ユーザエージェントのアイデンティティソース

ライセンス:任意

ユーザエージェントはパッシブな認証方法であり、ASA FirePOWER モジュールでサポートされる権限のあるアイデンティティソースの 1 つです。ASA FirePOWER モジュールと統合すると、エージェントは、ホストにログインまたはホストからログアウトするとき、または Active Directory クレデンシャルで認証するときにユーザをモニタします。ユーザエージェントは失敗したログイン試行を報告しません。ユーザエージェントから取得されたデータは、ユーザ認識とユーザ制御に使用できます。パッシブ認証はアイデンティティポリシーで呼び出します。

ユーザエージェントをインストールして使用することで、ユーザ制御を実行できます。つまり、エージェントがユーザと IP アドレスを関連付け、これによりユーザの条件によるアクセスコントロールルールをトリガーできるようになります。1つのエージェントを使用して、最大5つの Active Directory サーバでユーザ アクティビティをモニタできます。

ユーザエージェントは段階的な設定が必要であり、以下が含まれます。

- エージェントがインストールされたコンピュータまたはサーバ。
- ASA FirePOWER モジュールとエージェントがインストールされたコンピュータまたは Active Directory サーバとの間の接続。
- ASA FirePOWER モジュールとアイデンティティ レalm内のディレクトリとして設定されたモニタ対象 LDAP サーバとの間の接続。

エージェントは、以下を実行しているコンピュータまたはサーバにインストールできます。

- Microsoft Windows Vista
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows Server 2003
- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2012

コンピュータはまた、モニタする Microsoft Active Directory サーバとデバイスに TCP/IP アクセスできる必要があります。また、サポートされるいずれかのオペレーティングシステムを実行する Active Directory サーバにエージェントをインストールすることもできます。リアルタイムデータの取得を実行する場合、サーバは Windows Server 2008 または Windows Server 2012 を実行している必要があります。

段階的なユーザエージェントの設定とサーバの要件の詳細については、『*User Agent Configuration Guide*』を参照してください。

ASA FirePOWER モジュール接続は、ログインとログオフがユーザエージェントによって検出されたユーザのメタデータを取得可能にするだけでなく、アクセスコントロールルール内で使用するユーザとグループを指定するためにも使用されます。エージェントが特定のユーザ名を除外するように設定されている場合は、そのようなユーザ名のログインデータは ASA FirePOWER モジュールに報告されません。ユーザエージェント データは、デバイスのユーザ データベースとユーザ アクティビティ データベースに保存されます。



(注) ユーザエージェントは \$ 記号で終わる Active Directory ユーザ名を ASA FirePOWER モジュールに送信できません。これらのユーザをモニタする場合は、最後の \$ の文字を削除する必要があります。

複数のユーザがリモートセッションを使用してホストにログインしている場合は、エージェントがそのホストからのログインを正確に検出しない場合があります。これを防ぐ方法については、『*User Agent Configuration Guide*』を参照してください。

ユーザエージェント接続の設定

ライセンス:Control

はじめる前に

- ユーザアクセスコントロールを実装する場合は、[レalmの作成 \(29-5 ページ\)](#)の説明に従ってユーザエージェント接続用の Active Directory レalmを設定して有効にします。

ユーザエージェント接続の設定方法:

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [統合 (Integration)] > [アイデンティティ ソース (Identity Sources)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サービス タイプ (Service Type)] に [ユーザ エージェント (User Agent)] を選択し、ユーザ エージェント接続を有効にします。



(注) 接続を無効にするには、[なし (None)] を選択します。

- ステップ 3 [新規エージェントの追加 (Add New Agent)] ボタンをクリックして新しいエージェントを追加します。
- ステップ 4 エージェントをインストールするコンピュータの [ホスト名 (Hostname)] または [アドレス (Address)] を入力します。IPv4 アドレスを使用する必要があります。IPv6 アドレスを使用してユーザ エージェントに接続するように ASA FirePOWER モジュールを設定することはできません。
- ステップ 5 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 6 接続を削除するには、削除アイコン (🗑️) をクリックして、その削除を確認します。

次の作業

- 『*FirePOWER User Agent Configuration Guide*』で説明されているユーザ エージェントの設定を続行します。

Identity Services Engine (ISE) のアイデンティティ ソース

ライセンス:任意

Cisco Identity Services Engine (ISE) 内の pxGrid アイデンティティ マッピング機能はパッシブな認証方法であり、ASA FirePOWER モジュールでサポートされる権限のあるアイデンティティソースの 1 つです。ASA FirePOWER モジュールと統合すると、この ISE 機能によって、Active Directory ドメイン コントローラ (DC) を使用した認証時にユーザをモニタします。ISE は失敗したログイン試行を報告しません。ISE から取得されたデータは、ASA FirePOWER モジュールでユーザ認識とユーザ制御に使用できます。パッシブ認証はアイデンティティ ポリシーで呼び出します。



注意

多数のユーザ グループをモニタするように ISE を設定する場合、システムはメモリ制限のためにグループに基づいてユーザ マッピングをドロップすることがあります。その結果、レルムまたはユーザ条件を使用するアクセス コントロールルールが想定どおりに適用されない可能性があります。



(注)

ISE デバイスの時間が ASA FirePOWER モジュールの時間と同期されていることを確認します。アプライアンスが同期されていないと、予想外の間隔でユーザのタイムアウトが実行される可能性があります。

また、ISE 接続を設定すると、ASA FirePOWER モジュールのデータベースに ISE 属性データとして、[セキュリティ グループ タグ (SGT) (Security Group Tag (SGT))], [エンドポイント プロファイル (Endpoint Profile)], および [エンドポイント ロケーション (Endpoint Location)] が入力されます。ISE 属性は、ユーザ認識とアクセス コントロール ルールの条件に使用できます。

セキュリティ グループ タグ (SGT) (Security Group Tag (SGT))

SGT 属性は、パケットが信頼できる TrustSec ネットワークに入るときに Cisco TrustSec によって適用されます。ISE を設定すると、モジュールはユーザとその SGT を識別します。これはアクセス コントロールに使用できます。

エンドポイント ロケーション (Endpoint Location)

[エンドポイント ロケーション (Endpoint Location)] 属性は Cisco ISE によって適用され、エンドポイント デバイスの IP アドレスを特定します。

エンドポイント プロファイル (Endpoint Profile)

[エンドポイント プロファイル (Endpoint Profile)] 属性は Cisco ISE によって適用され、各パケットのエンドポイント デバイス タイプを特定します。

Cisco ISE 製品の詳細については、『Cisco Identity Services Engine Administrator Guide』を参照してください。

ISE フィールド

次のフィールドを使用して ISE への接続を設定します。

プライマリおよびセカンダリ ホスト名/IP アドレス (Primary and Secondary Host Name/IP Address)

プライマリ (およびオプションでセカンダリ) ISE サーバのホスト名または IP アドレス。

pxGrid サーバ CA (pxGrid Server CA)

pxGrid フレームワークの認証局。展開にプライマリとセカンダリの pxGrid ノードがある場合、両方のノードの証明書が同じ認証局によって署名されている必要があります。

MNT サーバ CA (MNT Server CA)

一括ダウンロード実行時の ISE 証明書の認証局。展開にプライマリとセカンダリの MNT ノードがある場合、両方のノードの証明書が同じ認証局によって署名されている必要があります。

MC サーバ証明書 (MC Server Certificate)

ISE への接続時、または一括ダウンロードの実行時に ASA FirePOWER モジュールが ISE に提供する必要がある証明書およびキー。

ISE ネットワーク フィルタ (ISE Network Filter)

ISE がモニタするネットワークを制限するために設定できるオプション フィルタ。フィルタを指定する場合、ISE はそのフィルタ内のネットワークをモニタします。次の方法でフィルタを指定できます。

- すべて指定する場合はフィールドを空白のままにします。
- CIDR 表記を使用して単一の IPv4 アドレス ブロックを入力します。
- CIDR 表記を使用して IPv4 アドレス ブロックのリストをカンマで区切って入力します。

ISE 接続の設定

ライセンス:Control

ユーザエージェント接続の設定方法:

-
- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ASA FirePOWER 設定 (ASA FirePOWER Configuration)] > [統合 (Integration)] > [アイデンティティ ソース (Identity Sources)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サービス タイプ (Service Type)] に [Identity Services Engine] を選択し、ISE 接続を有効にします。



(注) 接続を無効にするには、[なし (None)] を選択します。

- ステップ 3 [プライマリ ホスト名/IP アドレス (Primary Host Name/IP Address)] と、オプションで [セカンダリ ホスト名/IP アドレス (Secondary Host Name/IP Address)] を入力します。
- ステップ 4 [pxGrid サーバ CA (pxGrid Server CA)], [MNT サーバ CA (MNT Server CA)], および [MC サーバ 証明書 (MC Server Certificate)] ドロップダウンリストから適切な証明書を選択します。オプションで、追加アイコン (+) をクリックしてオブジェクトを即座に作成します。
- ステップ 5 オプションで、CIDR ブロック表記を使用して **ISE ネットワーク フィルタ** を入力します。
- ステップ 6 接続をテストする場合は、[テスト (Test)] をクリックします。
-

キャプティブポータルアイデンティティソース

ライセンス:任意

キャプティブポータルは、ASA FirePOWER モジュールでサポートされる権限のあるアイデンティティソースの1つです。ASA FirePOWER モジュールでサポートされる唯一のアクティブな認証方式であり、ユーザはデバイスを通じてネットワークに認証できます。

キャプティブポータル経由のアクティブ認証は、HTTP および HTTPS トラフィックのみで実行されます。HTTPS トラフィックでキャプティブポータルを実行する場合は、キャプティブポータルを使用して認証するユーザから送信されたトラフィックを復号する SSL ルールを作成する必要があります。

設定して展開すると、指定レلمのユーザはバージョン 9.5(2) 以降を実行しているルーテッドモードの ASA FirePOWER デバイス経由で認証されます。キャプティブポータルから取得された認証データはユーザ認識とユーザ制御に使用できます。

キャプティブポータルはまた、失敗した認証の試行を記録します。失敗した試行で新しいユーザがデータベース内のユーザのリストに追加されることはありません。キャプティブポータルで報告される失敗した認証アクティビティのユーザアクティビティタイプは [認証失敗ユーザ (Failed Auth User)] です。

captive-portal ASA CLI コマンドを使用して、使用バージョンの『ASA Firewall Configuration Guide』の説明に従ってキャプティブポータルのアクティブ認証を有効にします (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/asa-5500-series-next-generation-firewalls/products-installation-and-configuration-guides-list.html> [英語])。アイデンティティポリシーのキャプティブポータルの設定を続け、アイデンティティルールのアクティブ認証を呼び出します。アイデンティティポリシーはアクセスコントロールポリシーで呼び出されます。詳細については、[キャプティブポータル\(アクティブ認証\)の設定 \(29-10 ページ\)](#) を参照してください。

キャプティブポータルは、設定された 1 つ以上のルーテッドインターフェイスを使用してデバイスによってのみ実行できます。

アクセスコントロールルールおよび SSL ルールの次の要件に注意してください。

- キャプティブポータルに使用する IP アドレスおよびポート宛てのトラフィックを許可するようにアクセスコントロールルールを設定する必要があります。宛先ポートがアクセスコントロールポリシーで許可されない場合、トラフィックはキャプティブポータルを使用して認証できません。
- HTTPS トラフィックでキャプティブポータルを使用してアクティブ認証を実行する場合は、キャプティブポータルを使用して認証するユーザから送信されたトラフィックを復号する SSL ルールを作成する必要があります。
- キャプティブポータル接続でトラフィックを復号する場合、キャプティブポータルに使用するポート宛てのトラフィックを復号する SSL ルールを作成する必要があります。

ASA FirePOWER モジュール サーバのダウンロード

ライセンス:任意

ASA FirePOWER モジュールと LDAP または AD サーバ間の接続により、次の特定の検出されたユーザのユーザおよびユーザグループのメタデータを取得することができます。

- キャプティブポータルで認証された、あるいはユーザエージェントまたは ISE で報告された LDAP および AD ユーザ。このメタデータは、ユーザ認識とユーザ制御に使用できます。
- トラフィックベースの検出で検出された POP3 と IMAP ユーザログイン(ユーザが LDAP または AD ユーザと同じ電子メールアドレスを持つ場合)。このメタデータは、ユーザ認識に使用できます。

ASA FirePOWER モジュール ユーザデータベースサーバ接続はレルム内のディレクトリとして設定します。ユーザ認識とユーザ制御のためにレルムのユーザおよびユーザグループデータをダウンロードするには、[アクセスコントロールのためのユーザおよびユーザグループのダウンロード(Download users and user groups for access control)] チェックボックスをオンにする必要があります。

ASA FirePOWER モジュールは、ユーザごとに次の情報とメタデータを取得します。

- LDAP ユーザ名
- 姓と名
- 電子メールアドレス
- 部署
- 電話番号

